

金上野の ①

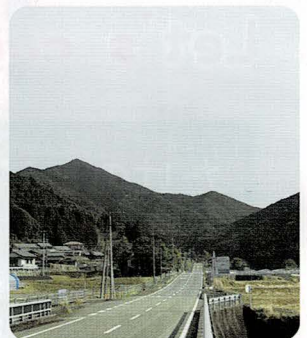


四

万十清流消防署のある古市町交差点から国道56号を南進。見付および東又方面へと向かう県道352号が交わる交差点を過ぎた辺りから、窪川運動場を左手に眺めつつ四万十町西ICを通過し、坂を登りきったところまでが金上野である。縦長の大きな地区で、上・中・下に分かれている。今回は主に下に行く。地区の南、黒潮町との町境にそびえるのは、標高658mの五在所の峰（五在所山）である。金上野側から眺めると、圧倒的な存在感はあるものの、比較的緩やかな表情をしているが、黒潮町市野瀬側から見上げると、頂上は尖っていて、まさに「峻険」という言葉が当てはまる山容をしている。

今から1000年以上前、大和の国の「役の小角（えんのおづぬ）」という高名な行者が、四国巡礼でこの地を訪れた。役の小角は、今の市野瀬側から見た五在所山の山容に圧倒され、ここで修行をするため山頂にこもることを決意した。ある日、役の小角は、近隣の行者たちとともに五色の旗を立てて修行を行っていたところ、五色の鳥が舞い上がり五社さんの上空に飛んで行った。この時、五羽のうち金色をした一羽が、現在の金上野上空を飛んだことから、この地を金上野と呼び、後に金上野となったという説がある。

また、五在所の名も、五色の鳥が住



市野瀬側から見た五在所山

む在所からついたという説や、五色の鳥が舞い降りたので「降在所」と呼んだことからきているという説、はたまた、頂上から五つの在所が見渡せることからきているなど、さまざまな説があり面白い。江戸期の地誌には御在所山と記されていて「八合目から先は登ることができない。朔望（陰暦の1日と15日＝新月と満月）には籠の人々がお神酒を備え、太鼓・笛・手拍子で賑やかに祀りした」とある。太古の昔から金上野の人々にとつて五在所山は畏怖と信仰の対象であったことが、さまざまな記録や伝説からうかがえる。

現在の金上野は町に近い方が人口も多く賑わっているが、中世までは、この五在所山の麓辺りの方が人口は多かったようである。隣接する現在の古市町に市が立つようになって少しずつ人口比が変わっていったのではないかと考えられる。

現在、金上野全体の人口は341人。世帯数は180である。

町のうごき

(2月29日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,964	-9	男 5	12	10	12
女	8,799	-10	女 2	18	18	12
計	16,763	-19	計 7	30	28	24
世帯数	8,400	-15	(2月中の届出)			

窪川地域 11,871人 大正地域 2,346人 十和地域 2,546人

四万十川の水質状況

新型コロナウイルス予防対策の一環により学校休校のため、3月の水質検査をお休みします。